

昭和三十一年十二月十八日招集  
第四回定例会(第一日)會議錄



昭和三十一年館山市議会第四回定例会会議録

昭和三十一年十二月十八日招集

議長(石井潔君) 本日出席議員数三十二名、二十より第四

回市議会定例会を開会いたします。

議長(石井潔君) 本定例会の議案説明のため、田村市長、

小出助役、完戸総務課長、山本秘書課長、新井建設課

長、唐沢保険課長、岡崎選挙管理事務局長、工藤

教育長、鶴沢庶務課長、庄司学校教育課長、関監査

委員、以上出席を求めましたので、御報告申し上げます。

議長(石井潔君) ついで会議録署名人の決定を行います。

お諮りいたします。従来例により、議事録署名人は

議長より指名により決定いたしますことに御異議ご

ざいませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって二十番議員鈴木市蔵君、二番議員、高橋文治君、以上御両名に決定いたします。議案を配布いたします。

議長（石井潔君）ついで会期の決定を行ないます。

本定例会の会期につきましては、議会運営委員会  
の御意見は本日一日ということであります。

お諮りいたします。本定例会の会期を一日と決定  
することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって会期  
は一日と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配布の日程表により逐次  
上程をいたします。

議長（石井潔君）日程第一報告第十八号、同第十九号を上程

いたします。

(書記朗読)

監査委員(関武夫君)十一月十三日に実施いたしまして、  
例月検査の結果を報告につきまして御説明を申し上  
げます。まず、一般会計であります。歳入におき  
まして市税において七百六十一万四千五百八十九  
円、内訳は、市民税が二百一十九万四千五百八十九  
円、たばこ消費税が九月分として百三十四万二千三  
百一十円、電気ガス税が百三十六万四千五百八十九  
円、税外歳入におきまして、六百三十二万五千八百  
八十九円、松戸市税輸分として、百五十九万四千五  
百八十九円、その他国庫支出金として、二百五十九万  
四千五百八十九円、市税の欠損額が四十四万三千三  
百八十九円、

本年度はじめてでございます。こゝは二十五年年度の  
分でございます。市税の収入未済額は八千八百三十  
三万七千三百二十五円という数字になっております。  
こゝのうち納期が到来しないものが約四千八十万ばかり  
ありますので、正味の滞納額は四千七百四十万円程  
度でございます。

歳末におきましては一千五百二十六万円余出ておりますが、市役所費において三百十一万円、消防費に  
おいて二百十万円、教育費において三百三十万円等  
が主なものでございます。歳入歳出差引金で二  
百十一万九千二百十四円残っております。一時借入  
金が三百万円ありましたが、こゝは郵政省から  
借入分でございます。現金保管高は五百十一万九千  
二百十四円でございます。つぎに特別会計に移ります。

公益質屋の会計であります。が収入におきまして、繰入金として三十万円入っております。こゝは一般会計から繰入したものでございます。一時借入金が、この期間に十万円返済しております。こゝは九重農協からの借入金を返したものでございまして、一時借入金の残額は二十万円でございます。貸付現在高が二百十五万五千四百八十円でございます。船形質屋が百六十六万四千九百円、審崎質屋が四十六万五千五百十八円でございます。国民健康保険および豊房診療所につきましては、この表によって御了承願いとうございます。以上で報告第十八号の説明を終りまして、十九号に移ります。十二月十三日に実施いたしました例月検査の報告でございます。まず一般会計におきまして、歳入におきまして、市税において六百七十八万七千百

五十六月入っております。この内訳は、市民税が二百五十万、固定資産税が百七十万、たばこ消費税が十月分が九十四万三千四百九十円、電気がス税が八十万、都市計画税が六十一万等が主なるものでございます。税外歳入におきまして、一千七百四十一万八千八百九十円入っておりますが、地方交付税として、二千三百五十三万三千円受け入れられております。地方交付税の本年度の受け入れ累計は、こゝで四千四百九十三万九千円になります。なお、十月分に千葉で行われまして競輪の収入として、三十万入っております。競輪収入が本年度の累計は、五百五十万円となります。その他国庫支出金が百五十万等でございます。市税におきまして、欠損額として、百二十五万三千九百十八円計上されておりますが、これも二十五年年度よりも、



ございまして。収入未済額が市税の収入未済額が八千三百六十八万三千八百八十八円弱でございますが、納期の到来しないものが三千七百八十八万四千五百八十八円弱でございます。正味で、滞納は約四千五百八十八万四千五百八十八円でございます。歳出では、千六百五十二万二千三百八十八円支出しておりますが、市役所費におきまして四百九十七万四千五百八十八円、消防費におきまして百二十七万四千五百八十八円、教育費において三百四十七万四千五百八十八円等が主たる支出でございます。歳入、歳出、差引をしまして九百八十八万五千四百八十八円でございます。一時借入金金は全部返済済みで、十一月末現在ではございません。たゞ、これは私の記憶におきましては、おそらく昭和二十六年ごろ以来、かつてなかったことだと存じます。

雑部金も混入分五百円と記載されてございますが、これは金庫におきまして、雑部金へ入れ替へるものを

誤まつて一般会計へ入れてしまつたものでございまして、  
 会計において気がつきまして翌月早速訂正されて  
 おりました。現金保管高は九百八十五万五千四百四十二円で  
 ございます。つぎに特別会計に移りまして、公益質屋  
 の会計でございしますが、貸付現在高が二百十二万三千  
 十円になつております。これは船形が百六十五万五千  
 六百五円、富崎質屋が四十六万七千三百六十円でござい  
 ます。つぎに国民健康保険でございしますが、保険料の  
 収入未済額が一千万三千八百五十八円という数字  
 が載っております。このうち納期がこないものが約九  
 百万円でございますので、正味の収入未済額は八百二十  
 八万八千五百五十二円でございます。豊房診療所の会計につき  
 ましては、この表によつて御了承願いとうございます。  
 以上で例月検査の報告に関する説明を終わります。

議長（石井潔君）（本報告に対して御質疑ございますか。御質疑なしと認めます。）

議長（石井潔君）（ついで日程第二陳情書を上程いたします。）

（書記朗読）

（紹介議員と一より一応皆さんに

お願いと御説明を申し上げます。陳情書とありて

ございますが、こゝ校舎は震災後、校舎でありま

て、おりまゝたけども生徒がだ

んだん、教室も痛んで二回直しまして

ちょうど合併前に、と思いまゝたが、

屋根、天井裏、おつたので

それをそっくりこんどはトタン葺きにしまして屋根も

りは防ぎまゝたけども、その当時

建築その他非常に、全部の修理がで

きなかつたのでそのままでありまして、現在教室

などは腐つていろいろ

— と思ひますが、どうかひとついち早く —

・議長（石井潔君）お諮りいたします。本陳情書を採

択いたしますことに御異議ございませんか。

・二十八番（鳴貫壮作君）

— ではありませんが、

同じような陳情書があと二通出てゐるんであります。が、  
これに對して教育委員長<sup>（佐々木）</sup>どう考えてゐるか。また市当局  
はどう考えてゐるか。という点を明らかにしていただきま  
せんければ採択ばかり——までも——

— ということになると思ひますんで、市当局ならびに教育  
委員会のこれに對する態度をはつきりさせていた  
だきたい。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。教育委員会と

いたしましては普通教室を優先的にやりたいと、こういう  
考えをもっておりますが、これを全部そのままやるという  
ことも特殊事情がございますので考慮すべし  
がたいと思っております。豊房小学校の講堂につき  
ましては現場をみまいて、この陳情書にあります事  
柄をつぶさにみております。かような観点から市の  
財政が許せばこれを来年度の予算において執行  
したい。かような考えです。

二十八番(嶋貫壮作君) 事情が許せば来年度やりたいと  
こういうわけですね。市の当局が考えはいかでしよう。  
市長(田村利男君) 市当局の意見としましては、まだ、予算  
の編成にも入っておりませんので、詳しく申し上げること  
はできませんが、教育長が申し上げたとおり、教  
室第一主義を採っております。まだ、実際うところ

講堂までは手が回りかゝるという状態が本音でございます。豊房小学校講堂よりもっとあるいは西小学校とか、ひどい学校もあります。また館山小学校の講堂もかなり腐朽しておりますので、これをいまいうちに修理しなければいけないということは重々わかっておりますが、もう少し財政の方とにらみ合わせまして、また地えの方ともよく相談し合ひまして善処しようと思う次第でございます。

二十八番(鳴貢社作君) 教室第一主義をお採りになるのは当然だと思ひますが、ただ議会へこういうふうな陳情書を出された場合にこれにわいわいとしては善処しなけければならないようなことになるではないかと思ひます。そうすると市ではよい、いつごろならばよいかと、こういうことをお尋ねしてみたいと思ひます。

市長（田村利男君）差し迫っておりますのは、三中の問題と西小學校の問題であります。こゝに二つ問題を解決しますと大体校舎や教室の方は、やゝ目はながつくんじやないかと思わします。で大体の目安は、そゝでござい  
ます。

十一番（伊勢仙之助君）講堂の問題につきまゝて、私たちが——  
につきまゝても、先般来各學校をみて参りました。豊房小學校に——ても、もちろん腐朽がはなはだしいであります。その場合、館山小學校、那古、富崎、西岬小、西小、東小、こゝにいた大体の講堂は、手を加えなければ困るというふうな現状であるのであります。先般来、市長が教室優先という立場に立つてやるんだというふうに申されておりますけれども、講堂に対しても戸を加えなければ、将来相当のばく大な経費がいっ

ぺんにかかるといふうに感ずるわけです。おそらく  
館山市の教育予算そのものについてみますと、教育に  
は非常に高いようにみえますけれども、高等学校  
あるいは幼稚園、こつうといったような予算を差し引いて  
義務教育の小中学校に考えてみますと、決して高  
いパーセンテージをもっていないわけであります。

私たちも基本的な考えをいたしまして、PTAに負担  
して——解決して行くんだといふうなややも

すかば父兄の負担によつて、学校施設の改善、  
と、そういったものを、際根本的に考え直して、少な  
くとも教室、講堂の類は、市が財政によつてまか  
つてやるというふうな基本的立場に立つてやつて  
いただきたいと思ひます。来年度の予算編成につ  
いてとくに教育以外に講堂といふ問題についても、こ  
う修理費と



いうものに相当り予算を組んでいただきたい。来年度  
の予算編成について前年度よりも上回るという現象  
が出て参りまうと思ひますが、その点は館高の  
—— 問題、そういうような問題とからみ合わせて  
前年度の予算よりも講堂の修理というような点  
についてはさらに予算を増額をしてなんとか解決し  
なければ講堂の改修とか全面的改修とかいうふうな  
問題になりまう。さらに多くの予算を食うのではな  
いかとそういう観点から予算編成につきまうては、十  
分講堂修理の問題も考えてもらいたいと思ひます。  
私はその意味におきまうて、この陳情書に對しまうて  
は、全面的に賛成いたします。

。二十番（鈴木市蔵君）この陳情書に對しては異議があり  
ません。御採択願ひたいんですが、この前那古小学

校でやはり講堂の修理について陳情書が――

――いま二十八番議員のいったとおり、採扱ばかりしてもなんとも効果があらわなくてこない。

――というところ、那古小学校、そのもうをみるとほとんど土台下から一寸あたりの柱が腐り果てておる。いいあんばいに館山市はシケがケないもんであつて、残つておるが、ひと風吹けばおそろく那古講堂あたりはぶつつぶおちやうと、私、みたく目では、そう解釈しておるんだが、いま十一番議員のおつて、さうたとなり、来年度の予算が講堂というもので、全面的にとつて、そうして修理をしてもういたいということをお願ひいたしますが、と同時に、教育長としては、これをどういうふうな考え方をしておるか、ということをお伺ひ――ます。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。先ほど申しましたが、教育委員会の方針をいたしましては、普通教室優先、普通教室から次才に特別教室、さらに講堂、付属建物というように行くのが順序だと思ひますが、教育予算がなんと申すまでも財政再建のために相当窮乏になつておりますので、いまうお話のような那古、その他講堂までは、当分及ばないのではないかということを心配しておるやうであります。

・二十番（鈴木市蔵君）いま――

――那古小学校の講堂

――悪い講堂であつてもそこまではおよばないという  
――ような教育長御意見ですが――

――主眼に弁明がでると思つてゐるんですが――

やはり館山市としては講堂そのものは

当然入っていると思いますが、これは応急手当てとしても当然  
然ちて行く気持ちがあるかないか。あるとすれば、やらないと  
いうように解釈しますが、それでいいんですか。

市長（田村利男君）お答え申し上げます。去年も修理費  
を百万円確か出してあると思います。ことしもそ  
れあるいは、それ以上修理費を当然見込まれます  
ので、それより個所にそれより必要に応じてちて  
行くことはもちろんでございます。

二十八番（嶋貫壮作君）いろいろ弁明がありましたが、結構  
だと思えますが、ただ教育委員会としてこういう差し  
迫った財政のもとでなるべく効果を挙げようと、こう

いうことをするのには、手あたり／＼ばったりでなく、一定の計画を樹てて、そうして順々にこうやって行くとかなんとかいうふうにしてもらわなければ陳情書が――

その点について、教室室優先でどことどこで学校をどうやって、それから特別教室をどこをどうやって、それから講堂へかかるならかかるという計画というものがなければならぬと思います。その計画をお知らせ願いたいと思います。

・教育長（工藤和平君）　ただいま御質問に対してお答えいたします。年次計画といたしまして、それぞれの学校の重点的に修築するという案も可能であろうと思いますが、そのみに没頭すると（「ちよ」とお話中ですが、そういう議論めいたことを聞いているのではない。あなただけの方に樹ててある計画を聞きたいんです。）」と

（呼ぶ者あり）三十九年度の計画でございますね。

（年次計画、年次計画をお尋ねしなければ、例えば豊房小学校の講堂修理を陳情した。これについて、あなた方は来年度のなんによればやっております。またあとからくる。こういうことになるんで、突発的な事故がなんかあった場合は、別問題ですけれども、そうでない場合は、一定の計画を樹ておいて進んでお出になるということが、私はいいことだと考えております。従って、その年次計画なり、なんなりをお尋ねしているわけでありまして、と呼ぶ者あり）わいわい、今までの計画画といつては、再三申し上げましたように、普通教室を第一と考えるとして、逐次やっております。カー、ただいまのお話があったような講堂につきまゝでは、予算が許せば、これも修理して行かねばならぬであろうと、従って、重点

主義と併行して修理もやって行きたいとこういう希望  
なんです。

。市長（田村利男君）私代ってお答えいたします。過去二年  
間から将来計画通りに大体やってきまして、ことゝ来  
年で教室重点主義という四年計画を大体目はなが  
ついたわけでございます。すなわち、四中、富崎小学校  
いろいろ建って参りまゐたが、あと残っておる来年度も計  
画は、三中、西小、こゝろちがでるうか、できないか、検討中  
でございますが、大体、それで目鼻がつかます。年次計  
画は終りてございます。それでこんど残るうが講堂という  
ようなわけでございますが、講堂うどこを北条小学校の講  
堂やたいに全面的にやるという計画はまだ、私うハラも  
ありませんし、教育委員会でも案はないと思ひます。う  
で、お答え申し上げます。

（「案はないですか。教育委員長さん、市長さんうおっしゃることをそのまま受け入れてよろしいですか。あなた方は就任なさって曰が浅いから、そんなに樹てられるわけがないと思ふんだけども」と呼ぶ者あり）

教育長（工藤和平君）いま問題になっておりますのは、三つの問題、こゝは一番大きな問題として計画をしております。

七番（豊房の方でも実際困るうで、危ないので陳情を出したのです。実は豊房の講堂の方は小学校でも使い、中学校でも使っているんですが、中学の方でも先般——方々をPTAの寄付付によりましてタタミを入れ、修理いたしまして講堂を使おうといたところが、小学校の校長の方から抗議があつて校長がいわく、小学校



として——危険があるからという話であって

さうなわけであって——

さっき申し上げました——

・市長（田村利男君）重ねてお答え申し上げます。十分

修理費がかなりとっておりますので、また同じ講堂でも重点的に採りまして修理いたします。

・二十八番（鳴貫社作君）当局でそういうお考えならば我々は陳情書を採択して一向差し支えないと思います。

ただいままでのように陳情書を採択してもそれが実現されませんと、議会が威信にかかると考えるので、伺ったのでありますが、当局がそういう考え方でございま

―たならば、こゝを採択していただきたいと思います。

議長（石井潔君）お諮りいたします。本陳情書を採択いたしますことに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本陳情書は採択いたしました。採択う上は、教育委員会へ送付いたします。

議長（石井潔君）ついで日程第三陳情書を上程いたします。

（書記朗読）

三十一番（飯田義雄君）本陳情書説明方々お願いいたします。

―て恐縮でございますが、昨年う九月（日付をもち

まして、皆さんう御協力によりまして、神戸幼稚園

が開設をいたしました。―か―当時 ―も

現在なお、こゝうな形で使用いたしておるわけでございます。

ます。教育あるいは幼稚園の経営に当りましては、若  
般り御協力と努力によりまして、着々と成果を挙  
げておりまして、非常に市民の感謝と関心の的に  
なっております。ところが最近、ようやく

——の中でかつて、合併当時の建設計画の一環  
にもございますように、理病舎は速やかに市へ統合し  
て、これをなんか利用をするということがございます。

そういうこともございまして、現在——建てま

して、足かけ七年になります。が、患者はほとんど入っており  
ません。確かに名入ったことがあると思いますが、それも

市の方ということでも、市で治った状態でございます。

非常にガラスの破損とかあるいは雨にさらされて、だん  
だん腐って行く、こういう状態でございます。私たち  
としては、なるべくこれを利用して、一日も早く独立園舎

をつくるという希望で実はこの陳情書を出した次でございします。本陳情書はただきう、あーたという問題ではなく、これが県の補助金によって建てられた~~病舎~~病舎でございします。従って皆さんにお願いをして、まず、移管替えをしていただく。市の財産として移管替えていただいて、それから幼稚園に振り向けていただく。こういう段階になるのでございしますけれども、まず、第一段階としては、将来幼稚園として建てるように移管替えの手続きを市長さんをお願いをしたいと、こういうことでございします。地え民といたしまして、現在の市の財政を十分承知いたしまして、できる限り地えでも拠出をいたしまして、この~~病舎~~病舎の改築の費用に充てたいと、~~うい~~ふうに考えまして、今回逐次野金をお願いいたします。三十二年度に大体う——認可を

得まして三十三年度当初から、こゝ実現をみたい。こういう  
ような計画をしておりますので、よろしく御協力をお願い  
します。今まで西岬とか、移管替えの手続きをしてお  
るが、まだ果て——いるというような状態を聞きま  
して、来年中には、おそろくできないだろうということ  
移管替えができた次才にゐるという——  
をもっております。

結局三十三年当初になるんじゃないかという見通——を立  
ておるんで、——移管替えの手続きが早

くできれば三十二年度に着手したい。こういう希望で  
ございます。

議長（石井潔君）本案に御質疑ございませんか。

二十八番（嶋貴壮作君）いま、飯田議員が御計画で市当局  
ならびに教育委員会の方では、これに添った——

出て行つて下さるもんでしうか。どうでしうか。

市長（田村利男君）　そうお答えと。ちっとお答えにならないか。

も知れません。十日ばかり前に民生部長に会いま

ーたら、館山は、まだ疎病舎が統合してない。困るか

ら。速やかにしてくわと。こらいうわけなんでございまーて。

こは幼稚園に使えという意味でなくて、もっと統合し

て、疎病舎を八百万円でつくらないかという誘いや水で

ございます。結局、計算によりますと、忘れまーたが、八

百万円の予算のうち、市費が最悪の場合、百五十万円く

らいかければ、八百万円の大建築ができるから、大部落の

疎病舎を速やかに売却して、市費百五十万円出す用

意はないかと聞かされたわけでございます。それで、こ

は、ちっといいか悪いかわりませんけれども、三芳村

の村長が館山市へ疎病舎の統合を申し込んできて

おるから、こゝに半分出させれば七十万か八十万円市が出せば用が足りるからと、民生部長がそういうことをいっておりまして、というようなことがなによりまして、そうすると、この改事をすればおそらく三十二年度から、あそこは統合のために潰したんだということといえば、飯田さんの考えば、三十三年度かかるそうだけれども、私は三十二年からできるものといままで信じておったんで、飯田さん考えと、ちよつと違ったんですが、厚生課の方でそういうこと、たか知りませんが、私は知らなかつたんですが、衛生部長の考えでは早く潰せというのが意見で、それよりも少し金を出して八百万円で堂々たる避病舎をつくるというのが、民生部長の腹のようでございます。改事を兼ねて改事外のことを申上げました。

二十八番（嶋貫壮作君）ト、御採択を願うことにお願ひいた

います。

十一番(伊勢仙之助君) 紹介議員にお尋ねしますが、先般  
来、私たちが視察に参りましてときに地元の学校長と  
いたしましては、あう建物を取りこわして小学校の校  
庭内にもって行きたいというような考え方が強かった  
のでありますが、その点について、この陳情書は現地  
のまゝ——というふうに解してよろしいですか。

三十一番(飯田義男君) いろいろ協議をいたしまして結果、  
やはり現地は環境も非常によろしい——  
使えない材料も出てくるんじゃないかということでは現地  
で——

十一番(伊勢仙之助君) さらに御質問いたします。なお、あ  
そこ、松林が非常にありましてもちろんだ松の伐採、道路  
の整備というような問題が当然起ってくると思ひますが



そういう点まで十分お考えでしょうか。

三十一番(飯田義男君)あそこは幸いに個人が土地もござい  
ます。 ————— になつております。

そういう関係でそういった点も現在すでに —————

ナニ番(

ちやつとこれに関連してお尋ねいた—たいと

思いますが、教育長さんにお尋ねいたします。

幼稚園の件でありますが、 —————

幼稚園とか保育園とか、 —————

これはこんど

どういった方向に —————

について伺いたいと思います。

教育長(工藤和子君)お答えいたします。幼児教育が重要  
さというものはわかれわけも承知しておりますが、義務教  
育の方で費用がそうために相当食わけておるような実

情であります。三十一年度、保育料を差し引いた幼稚園費が約二百八十万円ほど食っておるんであります。赤字になっておるんであります。従いまして、こんごはあと限り、受益者負担というような線にもって行きたい。独立採算の線にもって行きたい。かような考えでございまして。

・十二番

全部そういった方向に――

私は解釈する段階ではないと思っております。それは当面において独立採算制を採れるということは結構な問題であります。が、まだそういったところに――ない個所があります。それをどういうふうにして行くかというようにことをひとつ重ねてお伺いしたい。そういった地域が、その点についてお尋ねします。

・教育長（工藤和平君）神戸小学校幼稚園の問題を解決する前にわいわいといたしまゝで、こんごう幼稚園の経営のあり方、いろいろ委員として研究したんでありますが、現在すでにありますもう、既得権を持っておりましてものにつまみーては、いかんともーがたい。ーかも三百万円の月謝を、さらに三十円~~増~~り五十円なり上げるといふことはいかなものであらうかといったような点から、できるだけ、こゝは盛<sup>セ</sup>り立てて、行かねばならぬが、かようなことを、こんごつぎつぎというふうな理由はない。現在、教育財政が余裕がでまゝなならば、あらゆる面に拡大して行きたい。こゝういふ意見でございます。

○ナニ番

）ただいま、御答弁によりましますとーという、私、最後の一点が御答弁にもれておりますので、改めて伺います。

・市長（田村利男君）市立——幼稚園ないー保育園もないところ  
 ろは船形、西岬と豊房三地区でございます。全然姿も形  
 もないが西岬だけでございます。こういうような観点  
 から同じ幼児教育の機会均等から申しましてもせひ  
 とも西岬地区へもできれば西岬にも私立幼稚園ござい  
 まいた。なんとか保育園があるようですが、市立のもうと  
 してもつくらなないけないというわけでーたらいろいろこんご  
 研究の上西岬地区へもつくっていいんじゃないかとこういう  
 ふうに考えます。

・十二番（

）ただいま幼児問題について了といたしま

したが、予算がどうかこうとかいう問題でないと――

独立採算制へもって行くんだということてあります。が、  
 本件に對しても賛成するものであります。が、一応こ  
 はそのまゝ――  
 いう考え方であります。か、それ

とも———その点を市長さんにお尋ねたいと思います。

・三十一番（飯田義男君）大体どうかという改築費があったら、

———いうことを———

全部で三十

五万弱

・教育長（工藤和平君）神戸小学校付属幼稚園の遊病舎を幼

稚園に充てるといふ問題につきまゝて教育委員会（陳

情）まゝたときに一切の費用は地えで持つて、こういうお

話でございまして、教育委員会では採択しました。

・議長（石井潔君）本陳情書を採択するに御異議ございま

せんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって本陳情書は採択と決定いたしました。ただちに教育委員会へ送付いたします。

議長(石井潔君) ついで日程第四陳情書を上程いたします。

(書記朗読)

二十八番(嶋貴杜作君) くどいようですが、この問題について市教育委員会ならびに市当局うお考えをお尋ねいたします。

十二番( )

助役(小出武男君) ただいま――

二十八番(鳴貫杜作君)別に助役さんの答弁を拒否するわけではありませんが、事負重大だと思つたので、市長さんならびに教育長の

市長(田村利男君)三十二年度予算につきまゝでは、ただいま総務課、ならびに教育庁、教育委員会と予算折衝中でございますので、ただいま検討したことはいえない過程になっております。それでよろしうございますか。

二十八番(鳴貫杜作君)教育長にお尋ねしますが、この問題は来年度の予算に出てるんですか。

教育長(工藤和平君)三中の問題が一番大きな問題だと思つてあります。これが相当教育予算を

(「いやいや出てゐるか出てないか」と呼ぶ者あり)

それから通過するかどうかによって、西小学校が入るわけですよ。

十二番( )ただいま予算の審議は私はどうかと考

えらんであります。が、その解釈について局長の御答  
弁をお願いいたします。

・事務局長（高梨清一君）この席から申し上げます。

二十八番さんの御質問は、この可能性を質す意味から  
来年度計画案について教育委員会に

もう

と想像いたしまして、その程度ならいいんではないかと私は  
考えております。

・二十八番（嶋貫社作君）いま予算のことについて、事務局長さ  
んから発言がありまして、私は

ただ来年度の計画をもっているかどうかということを探ねた  
んです。

（ ）たまたま予算ということですが、字句に現  
われた関係上、私はそう解釈したものであります。了解  
します。



十七番

(ただいまこの問題につきまゝて紹介議員

う問題がありまゝだが、吉田議員と私が確か

紹介議員であつたと思う。これはなんか事務上の誤りで

— と思ひますので。

地えり吉田

議員にこの問題につきまゝて(えけり)説明してもらつて  
審議をいたゞきたいというふうに。

事務局長(高梨清一君)

(この席から陳謝いたしますが、おや

らくそうじやないかとお持ちになつたときは、安西議員さんも  
いらつてやつてお話を伺つておつたんですが、印刷の誤りで  
落したんじゃないかと思ひますので、審議う——お進  
め願ひします。

十二番(吉田勇治郎君)

(ただいまつまらぬような問題で時間

を費やした

地元安西議員さんと二人が地元だから紹介議員というこ  
とでやったことは事実でありますがこの陳情書の内容  
につきまゝではここにゐる書いてある通りでございます。

ただ紹介議員といたしましてはこゝろであるということ  
をここに強調いたしまして速やかに要望を請たい。いた  
きたい。やっていたきたい。こゝろ紹介するものであります。  
つきまゝでなお私たちが目で見るところはとにかく  
御承知のとおり窮屈であります。市役所までくる

にはとにかく館山人が——こゝろは

うな条件下でありまして非常にはずかしいのであり  
ます。——ひと汽車も二汽車も

遅れている。——こゝろな状況であります。

いたしまして去年——

こゝろいうふうにつかなくなつたやうなこゝろはこゝろ

—のてあります。どうかこの陳情書に興味を  
御賢察下さいまして、速やかに要望を満たしてやることを  
お願い—まして紹介議員として—

。二十八番(嶋貫杜作君)元へ戻って参りまして、教育長さんの  
さつき御答弁がさくのみひまめませんが、もういっぺんはつき  
りとお願います。

。教育長(工藤和平君)お答えいたします。三中間題が  
大きな問題でございますので、それを最初に考えま  
—てその後、予算の折り衝を—たい。こういう—

。二十八番(嶋貫杜作君)そうすると西岬の問題は全然計画  
の中には載っておらんと、こういうことになるわけですか。

。教育長(工藤和平君)考慮に入れています。

。二十八番(嶋貫杜作君)どういふようにな—

。教育長(工藤和平君)考慮に入れていることは計画に入れて

あるということでございます。来年度の計画ですが、予算のことを全部いつてよろしいんでございまいょうか。

三十八番(嶋貫杜作君) 予算のことは聞いてませんよ。ただ来年度の計画の中に入っているかどうかという点を聞いてるわけです。

教育長(工藤和平君) 教育委員会が計画の中に入れてございいます。

二十四番( ) ちやっと重要な問題でありますので、教育

長さん、ならびに市長さんのお考えを伺いたいと思ひます。と申しますのは、合併後、大乗的見地に立って学校の経営その他、

学校の統廃合が必要だ

ということも九重

統合

をいたして参ったのであります。

一かーに

つきまーては、そういう統廃合がなされておられません。一かも  
視察して歩きますというところ、こゝは――

二つ、学校はひとつにすることが、――　　いふふうには

見受けらるるところが、かなり見受けらるゝてあります。  
御当局におきまーて、統廃合を考えて――　　おらゆる

か、おらゆるいか。ただ、そり――　　ならびに――　　な――

――　　ままでつくろうというお考えであるのか。それ  
ともさらに――　　適当なる統廃合を考えて

おらゆるかどうか。とくに教育長というのは、教育のエキ

スパートでありますので、お考えを承りたいと思います。

教育長（工藤和子君）お答えいたします。学校、統合につき

まーては、その筋から要請がございまして、たが、地元民の世  
論がまず、第一だと思つてあります。従いまーて

その地区、地区、世論が統合すれば、教員組織にすべて

の点において不便である統合した方がはるかに利点が多いという点に世論が喚起が参りまゝなみかつきにこれを推し進めて行くところという方向にもって行きたいと思つて思ふんです。

二十四番

(ただいま教育長さん)うお考えを承

りますというところ、地方民が——。まゝにおやりになるというふうに考えらるゝであります。そゝでは地方民が等におきまゝて決めてあなの方

つような

考えになつて

統廃

合すば能率

立派な学校ができるというふう

な専門家が見地に立つて考えらるゝことまで押一つぶいてただ地方民が——。お考えと

解釈して差支ありませんか。

市長(田村利男君)お答え申し上げます。学校が統合

問題は非常にむずかしいものでありまして、はっきり申  
上げますれば、西岬の「カ村」と九重、館野、所村の人口  
的にみますと大体同じか、———と思うわけでござ

います。それともうひとつ、豊房の中学校と神余の  
中学校という問題があります。そういうようなわけで

ありまして、私としましては、いま市内でまず、常識的に  
考えて問題にすればするものは、豊房の神余中学校を  
ある程度、西岬中学に合併するというのが、私に偽らざ  
る意見でございます。また将来もそのように進んで行  
きたいと思うわけでございますが、教育長がいったとおり  
やはり地区民の意思も十分尊重しなければいけま  
せん。で、まずいまいとところ、問題に上がるのは、豊房  
だけでは、ないかと思ひます。———この問題も地区

民が十分なる了解を得た上で、実行に移そうと、こ

いう考えてございます。

神余と豊房でございます。

議長（石井潔君）本陳情書を採択に御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本陳情書は採択と決定いたします。教育委員会へ陳情書は送付いたします。



(書記朗読)

。教育長(工藤和平君) 従来

高等学校の教職員が

あるいは上級学校教員養成の学校で

ありますが、そういう学校に入つて

復職を

する際に欠員がございませぬ場合には、これをそうします。

普通休職とみなしてつづけてきたんであります。ところが

小学校、中学校、糸項がこれにありませんために、小学校、

中学校の教職員がこのような場合には、いったん身分が

切れる。欠員がない場合には、復職ができないうて、身分

が切れる。それを救済していただきたい。このような趣旨であ

ります。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り

り決定いたしました。

議長（石井潔君）——はうく休憩をいたします。

議長（石井潔君）（休憩前に引き続いて会議を開きます。）

議長（石井潔君）（日程第六議案第八十二号）を上程いたします。

（書記朗読）

市役所へ入れいたしました結果、最低は小泉建設株式会  
社が代表取締役小泉シンゾウさんで、この契約  
金額 十三万二千円で契約し、工事を施行しようとする  
ものでございます。なお校舎の建築位置は図面  
で示します通りでございます。三教室になってお  
ります。

議長（石井潔君）本議案に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって承認と認めます。

議長（石井潔君）日程第七議案第八十三号を上程いたします。

（書記朗読）

（本工事につきましても同ト十二月六日に午後市役所へ入札いたしまして結果 最低の渡辺——契約金額二百三十六万五千円で落札いたしましてこれで契約を結ぶたいというものでございます。なお、西岬中学校の三教室でございます。）

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長(石井潔君)御異議なしと認めます。よって御承認と認めます。

議長(石井潔君)日程第八議案第八十四号を上程いたします。  
(書記朗読)

(本工事につきまゝでは、十二月十七日昨日市役所で行かれたまゝの結果、百四十七万円、で最低者ミヤシタマサオと契約いたしたいというものでございます。なお、本工事は二教室でございます。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

十一番(伊勢山之助君)この議案には異議ないんですが、ただ二教室建った場合に非常に坪数ですが、

——方向に持つて行つていただきたいと思います。

——校舎の脇へ

——どうような

考えになっておりますか。御質問したいと思います。

( ) あう土地のことにつきまゝでは、地えりPTA  
の会長さんからさういう申し出があつたのでございしますが、  
こゝ建築する前にその購入の財源というふうなものが、  
捻出できませんためにそのままになっておりますが、将来  
考えたいと思います。

議長(石井潔君) 御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よつて本案は、原案  
通り御承認と認めます。

議長(石井潔君) 日程第九議案第八十五号を上程いたします。

(書記朗読)

総務課長(完戸貴君) 八十五号について御説明を申し上げます。  
安房信用組合は昭和三十年の十二月五日に業務を開  
始したものでございます。これは、大軒町を中心とい

たし、まして、日計貯金を主として行って含ませて――

――納税貯金を扱ってあるものでございます。

ところが納税の實際になりますと、預金者がいったん信用組合から引き出しまして、改めて金庫事務を扱っている――

――いう不便があるわけでございまして、よって、この際、市金庫に指定いたしまして、納税者の便利と納税成績の向上を図りたいと、こういうふうに考えるものでございます。よろしく御賛成のほどをお願いたします。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。本案は、原案

通り決定いたしました。

議長(石井深君) つづいて日程第十議案第八十六号、同議案第八十七号一括上程いたします。

(書記朗読)

・終務課長(完戸貴君) 八十六号、八十七号、一括説明をいたします。  
市良う財産区につきまゝては、旧富崎村から合併の際引継がれたものでございます。内容はただいま朗読いたしまして。

確実に管理するには、どういふ方法が一番よろしいかといろいろ研究いたしたところでございますが、財産区から館山市に寄付をしてもよろしくことが一番適當である。こういうふうを考えまして、十月十日に四地区代表十名と協議をいたしまして、さらに十一月十三日、十四日、両日にこの地区民より――意向を聞きまして、たゞい

ま朗読いたしまして条件を付しまして、館山市へ無償

で譲渡するということに決定いたしましたのでございます。  
十一月二十八日に西地区代表から市長に對し、まして、正  
式に申し入れがございまして、これを受けようとする  
ものでございます。よろしく御賛成のほどをお願いい  
たします。

十八番（ ） 二に類似している問題であります。  
たゞで、お伺いします。

終務課長（元戸貴君） 答えいたします。終戦当時  
その他行政区でもっておりまして、財産は市に帰属す  
ると、こういう通知があつたのでございます。實際問  
題といしましては、これを全面的に市で――

ということでは、現在では、それより地区で財産



として ーております。この財産で

これは別個のもうございまして、今回正式に市へ寄  
付をしたいということでございますので、受け入れたいと

議長（石井潔君）本案に対して御異議ございせんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

（ ） お伺いしますが、過

去におきまして ーの問題でいろいろと

この件について

現在どうなっておりますか。それをお尋ねしたいと思います。  
す。

まず、那古の市有地の問題、第二の問題として船  
形、市有地の払い下げの問題、それから石切場

の問題

。終務課長（完戸責君）お答えいたします。那古海岸の市有地の問題につきましては、市有地と国有地、ならびに民有地との境界の調査につきまゝて、館山土木出張所に依頼をまゝたゞてございます。館山土木出張所におきまゝては、数回にわたつて慎重にこれを調査いたしまして、——におきまゝては、

——決定線が出来たところ、こういうことでございすが、いづれ正確なものを作成して市へ送付すると、こういう段階になっておりまして、そういう関係で、まだ、ここが

境界であるというふうなはっきりしたことを申し上げる段階にたつておりませんが、日ならず土木出張所から正確な図面が届きますので、その際ははっきり

船形海岸の市有地の問題でござ

いますすが、これは現在

ものに対して

売買する

という――方法を採りまして、先般総務委員会でも現場をみていただいたのでございしますが、今回――価格の点につきましても折合いがつきまして、これは遅くも三月末か五月末くらいまでは全部売却処分を完了したいといふ、このように考えております。

それから船形の元石切場の問題でございしますが、これは今回――はじめでございしますので、市

の方から――現場を調査して両方でいろいろ

う決定線を出したいとこういうふうに考えておつたうで  
 ございます。その後農林省から——参つたうで  
 ございます。このときはただ単に現場をみたいというだ  
 けで帰りまゝたうで、その後参りまゝて二回にわたつて  
 こちらから督促をいたしまゝたが、いまだに現場へ参  
 りないうでございます。そこで市ではこれを独自  
 立場から解決をいたしたいとこういうふうに考えたうで  
 ございます。——か——長い間石切場から石を採取  
 しておつたうでございすが、——はつきりい  
 た——ませんうで、これは大体——仕方がない。  
 こういうふうを考えまゝていろいろ研究いたしたう  
 でございます。——か——これは——

これも実際にはつきりいたしませんうで、市におきま  
 しては大体十五カ年ぐらいにわたつて二千リムベ

らいます。採ったんではないかと計算を——当時の物  
価指數をいろいろ換算いた——ま——て計算しますと、  
一万二千五百七十四円という数字が出て、これを仮に二千  
五百リューベといたしますと、二万四千二百九十円という  
数字が出て参ります。が、これは本人の立場も考えます  
と非常に恐縮しておるようなわけで、そういう關係で

——一万八千円——

——こういうふうに考えて交渉

いた——たりでございます。

それでこれは本人も了承い

た——ま——て現在一時金でこれを納めるといっても困  
るうで、一月から五月まで、毎月三千六百円ずつ分  
割——て納めたいということ——で、一応それで了承得られる  
ならば、本人の方へ一万八千円納めさせて、この問題は  
は解決したい。このように考えております。

なお、ただいま御質問外でございます。赤山グループ

いふ敷地として購入いたしまして土地の一部は  
リ個人から侵されておるわけでございますが、これは市  
長におきまして最近適当な解決策を講じたいと  
ころように考えております。

・三十一番

（本案に対しては賛成でございますが

・市長（田村利男君）

まだ、はっきり申出も

ありません。市におきましてここをどうするかという計画  
もございけません。おそろくこんど土地の——自分から土  
地を売った金で——をやってくれということも

申し出てくるんじゃないかと思ひます。まだ、申し出も  
市で考えもございせん。

・議長（石井潔君）他に御質疑ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君) 続いて日程第十一議案第八十八号、議案第八十九号一括上程いたします。

(書記朗読)

総務課長(完戸貴君) これは布良う財産区財産を受け入れるのとまったく同一のものでございますので、説明省略いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井潔君) 御異議なしと認めます。よって本案は、原案通り決定いたしました。

議長(石井潔君) つづいて日程第十二議案第九十号を上程いたします。

(書記朗読)

秘書課長(山峯潤祖君)議案第九十号について御説明申  
 上げます。こゝろ給与条例の一部改正は条例中に  
 あります。期末手当の額を改正したいと思つてござ  
 います。現在条例で決つておりますのが、六月  
 の期末手当は給料の百分の五十になつておるんでござ  
 います。十二月の期末手当は百分の五十の百  
 分の一、二百となつておるんでございます。

要するに一月分、給料の月額を支給することになつ  
 ておるんでございますが、今回、国家公務員の給与条例  
 の一部を改正になりまして十二月の期末手当は〇・一五  
 一割五分を増加する。こゝろのことになつたんでござい  
 ます。それにつきまして、果の総務部長から通牒がありま  
 した。地方公務員に対する期末手当の支給について



ても國家公務員の例により、臨時的措施をせらねることを期  
待し、参考までに通知しますと、こういう通牒があつたや  
うでございます。その期末手当の増額につきまゝでは、先  
日千葉市におきまして果下の市長会が開かれた時には、  
はまだ〇・一五の増加ということは決定しないんでござい  
まして、千葉市や市役所の秘書課から発表になつた  
ものは各組合から集めた資料であつたやうでございま  
すが、そうときにおきましては大体決つてゐる十五割  
ほかに多いところは二割五分を増加する。また少ないこ  
ろでも木更津市を除いたほかは一千円以上、二千円以上  
三千円以上プラスする。こういう線が大体できておつたや  
うでございます。木更津だけは条例で決つてゐる十五割  
以上は出さない。こういうことであつたやうでござい  
ますが、  
そう二三日後に法律改正がなつたやうで、木更津でも

おそらく改正の平均の・一五の増加はするものと考  
ております。館山市役所の職員組合からもこの国家  
公務員の給与条例の一部改正になる前に二千円程  
度増額してもらいたい。こういう要望があつたのでござい  
ますが、今回この条例が改正になりますと職員組合  
から要望した二千円よりいくらか平均で上回ることに  
なるのでございます。館山市としましては現在の  
ところではこの条例が改正になりまゝの場合には、こ  
れ以上要望はいまうところできないというふうに考  
えておるでございします。よつて本案はどうぞよろし  
く御裁決をお願いいたします。

十一番(伊勢仙之助君)私は本案に賛成するものであり  
ます。が、そのほかになんかプラス・アルファ的なものを  
超勤とか、その他方法で考えになつておりますか。

それをお伺いいたします。

・秘書課長（山峯潤祖君）現在うところは考えておりません。

・二十番（鈴木市蔵君）この支給には賛成するものであります。すが、それに対していま一割増加ということをして職員組合から二千円、要求があったんだというふうなことであったんだが、その場合二千円、そうします。うのみにすると――

――二千円そのものは職員に給与を――

平均で――この点伺います。

・秘書課長（山峯潤祖君）この件につきま――ては、二千円程度といつてみんな平均二千円とか、均等に二千円とか、そういうことはまだはつきり――な線は出ていないなかつたんでございます。市としても、いま財政から二千円は条例以外によるものは駄目じゃないか。――カー、よそが公務員法が全部改正になつて出す場合は止むを得ないとぞ

ういう考えておつたのでございます。

二十番（鈴木市蔵君）そうでなく、現在百から二百のものと、百から二百三十になつてゐる。その三十そのものが、これは給料でもって、高低をつけずに平均にやるようになってゐるのかどうか。

秘書課長（山根潤祖君）これは給料が多寡によつて、一割五分の増加となります。

二十番（鈴木市蔵君）この前々年末の問題については、市長としてはどう考えておるかということ、これは、この前は平均割というものがあつたんですね。平均に高低なくして、百からいくつというふうになつた結果、その後二千円から三千円平均割ということをやつたことがあるんですが、こんどは場合によつたが、ないんですが、その点を伺います。

秘書課長（山根潤祖君）昨年は一律に五百円支給いたして

いた。報償金として支給いたしまして。先般市長会でも  
て千葉へ集ったとき、二、三市から一律に二千円、三千円  
追加してくれ、こういう要求もあつたというお話でございま  
すが、税金がかかるのであるから一律といって、二千円、三  
千円もらった場合に實際のふところへ入るのは、給料が多  
い人は、少なくなる。それではいけないから、何割増という方に  
して方がいんどえなにかという意見が相当強かつたようで  
ございます。

二十番（鈴木市蔵君）私はこの問題について各職職員に対し  
ては、やはりある程度は、去年五百円平均とかいうように  
聞いたんですが、そういうふうな方法を市長さんにとって  
いただきたいと要望いたします。それでこの案、それも  
には、賛成いたします。

市長（田村利男君）折角の御要望でございしますが、今回はこの

規定によつて月給が一割五分増という段階でやらせていただくより方法は無いと思ひます。

二十番(鈴木市蔵君)一割五分といわずに一割でもつて五分を平均割にやつてもういたい。上り人はみんな――

下は一生懸命働くんだから下もある程度重くみていただきたいというが、――ぜひそういう

方法を採つていただきたい。お願いいたします。

二十一番( )ただいま秘書課長の説明に對し――十分

納得しました。従いまゝで本案には賛成いたします。なおずっと以前より十一番議員から超勤手当の問題について希望がございまゝたが、――

本案に賛成します。

十一番(伊勢仙之助君)なお臨時者に對しては、どういふふうな方

法で支給されますか。その点をお伺いしたいと思ひます。  
秘書課長（山谷潤祖君）臨時で職員に對しては、一カ年  
以上、引き続き勤務しているもの、また六カ月以上もの、  
三カ月以上、一カ月以上の区分にまゝて、四日ない、十六日  
分賃金より支給をいたさないと思ひます。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

十一番（伊勢仙之助君）そうしますと、結局〇・一五が今までの  
ものよりもプラスするといふ考へに立つて支給したいと、こ  
ういふふうに考へてよろしいうございますか。〇・一五だけを  
臨時者に對しても、今までの〇・一五が増加にならない前  
のものも支給しようとするものか。〇・一五だけ臨時者に對  
して、プラスしていただくかどうかという、その点いかがですか。

秘書課長（山谷潤祖君）今まで改正する前には、まだ改正にな  
りませんが、この改正条例を出す前には、去年のうちに

四日ないし十六日分、そしてなくある程度、そう下回ったもので行こうかと考えておたうでございしますが、こういうふうに改正になりまして、去年と同額を支給したいと思ひます。

十一番(伊勢仙之助君) 私は館山市の市役所の職員、臨時者の賃金というものが、おそらく官公庁の臨時者において最低の最低だろうと考えております。そういう点から非常に気う毒だと思ひまして、できずれば、〇・一五の増があつたんですから、臨時者にも多少なんらかの恩典をこの際、やつたらどうかというふうに考えておるものでございます。それから、なおプラス・アルファ点について、市役所の職員が成規の昇給も支給されて、ないという点からみまして、誠に〇・一五の増では、私は、気の毒だと考えておりますが、そういう点で十二月



の賞与には間に合わないだろうと思いますが、正月に行つて超勤や——早々増額というふうな点を考慮してな  
んらかう形でふだんう超勤をやっているものに対して支給して  
いたんだから、ここで少なくともなんらかう形で超勤を成規  
の条例に定められたいというものを要望いたします。  
なにか考慮していただきたいということを要望いたします。  
議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

二十二番（ ）ちつとお伺ひしますが、臨時の職員に  
対して期末手当として一カ月以上あるいは三カ月、六カ月  
一年というふうなそれによつて四日から十六日までの間で  
期末手当を支給したいと、そうしますと、最低四百円、  
最高千八百円から二千円まで行かないと思ひます。  
そういうことなんですか。

秘書課長（山谷潤祖君）最高は九千円ぐらいになります。

日額五百何十円という臨時の職員もおります。

二十二番

（その場合、勤務成績というものを考慮するのかわらないか。ただ勤続した期間が一月あるいは三月、半年、一年、こ小だけでやるか。勤務成績というものを加味するのかわらないか。その点をひとつ。

秘書課長（山本潤和君）現在う臨時の職員は全部まじめに勤務いたしておりますので、勤務の成績の差をつけたんくはないと思っております。

二十二番

（勤務成績というものをつけないというのとで了解いたしました。期末手当という性格でありますので、ぜひそのようにやっていただきたいと思ひます。

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は原案

通り決定いたしまして。

議長（石井潔君）——ばらく休憩いたしまして、暫時協議会に切替えます。

（書記朗読）

・保険課長（唐沢貞太郎君）特別会計国民健康保険の予算について御説明申し上げます。本予算は歳出面の更正予算でございます。第一款の役所費のうち、吏員給は、

当初におきまして職員は十人で大体月々平均額は十四万四千九百円でございまして、十二月末現在におきましては十一人になりまして、その金額だけで十五万五千円、年度末まで不足額約二十四万円を追加したわけでございます。つき——につきましては、人員については

同様でございますが、その額におきまして多少減っておりますのでございまして、五万円を減しましてございまして。

つぎの保険給付費のうち、療養費につきましては十七万円の追加を願ったのでございまして。当初見込みをたてましたときには、約六万一千円程度の月々歳出でございましてたのでありますが、現在は七万六千円を月平均にみえておりますので、その不足額約一萬五千元を追加したのでございまして。つぎの助産費の七万二千元を追加でございまして。やはり、当初月平均一萬九千円程度でございましてたのですが、現在までに累計の平均をみますと、月二万三千円程度出ておりますので、年度末までう不足分七万二千元追加したりでございまして。

つぎの葬祭費、四万円でございますけれども、やはり当初は一萬二千五百円程度の見込みでございまして、たんで

すが、現在、歳出は月平均一万五千円程度に出ておりますので、この不足額四万円を追加したうでございします。

つぎに原材料費が二十五万円でございますが、この二十五万円をもちまして、葬祭費、助産費、療養費、財源にいたつてございします。予備費は二十二万円、併せてございします。これは療養諸費と吏員給与不足額へと更正したものでございします。

二番（高橋文治君）議案には異議がございせんが、私は国民健康保険の保険料につきまして、二三保険課長にお尋ねしたいと思います。私がお尋ねする問題は十一月十九日に終務委員で市内の出張所、財産情勢視察の際にはじめて知った問題でございします。で、保険課長さんにお尋ねいたします。

まず、第一番に国民健康保険の保険料は年に四回徴収す

ることに当初予算を議決の際に決議されておると思ひます。なお保険条例にも四回に徴収することに決つておると思ひます。一かるに六カ村のうち二カ村を除いて四カ村は決議通り四期に徴収しております。あと二カ村と旧館山市内は十二回に徴収しております。かような不公平な徴収取扱いはどんな事情でござりになるか。この点お尋ねたい。

第二番目は、保険料の納期が参りまして二十日以内に督促状を發行することに規定されておりますが、これが督促状を發行さへてゐるや否や、第三番目には滞納保険料を徴収するに當りまして延滞料や督促手数料を徴収しておるや否や、以上三点をお尋ねいたしますので、保険課長の御答弁をお願いいたします。

保険課長(唐沢貞太郎君) 一番最初に納期の点についてお答え申し上げます。条例は確かに年四回をもつて

してございます。ただ、納期第一期は四月から六月というふうに各期を三ヶ月ずつをもつて一期としてございます。これは私がきましてから、はじめて知ったのでございすが、やはりお説のとおり、四回に切符を出しておること、十二回に切符を出しておることがあるのでございす。条例では各月ごとに三月をもつて一期としていたために、四回に切符を出すのも、十二回に令書を出すのも決して違法ではないと思ひますが、妥当ではなからうと思ひます。うで、三十二年度につきまゝでは、これはぜひ統一して納期を定めたいと同時に統一して令書を出したいというふうに考えております。第二、督促状、件でございすが、条例にもございす。通りに督促状は、納期限うすぎた二十日以内に出さなければならぬというふうに書いてございます。うで、これは訓示的規定であると解してお

りますので、あるいは二十日すぎても違法ではないというふう  
に解釈しておりますが、三十一年度については、人員不足の  
ためと申し上げますと、誠に申しわけないんですが、  
一期のみを発行しておるのみでございます。と同時に督促  
手数料は督促状の発布された場合については、っております。  
つぎに延滞金の問題でございますが、条例に規定されて  
おりますんですが、延滞金は実際には徴収しております  
せん。これは二十九年度にはじめて合併す

というためにまだ日が浅いので延滞金を徴収する段になって  
おらなかったというかも知れませんが、不合理でございますが、  
現在延滞金とはっておりません。これも来年度には、やはり  
市税と同調して、同じく税の性格をもっております  
ので、あくまでも延滞金を来年度は実施したいという  
ふうに考えてございます。



二番(高橋文治君) 条例はあんたがおつーやつたやうでございます。が、当初予算の説明の際に四期にとるといふことは、はつきり説明してあると思います。こゝは決議を軽視しておつてかやうな不公平な徴収取扱いにいたいますというところ。まだ、六ヶ村の市民は、こういう問題は知らないと思います。

私は終務委員の視察するとき、はじめて知ったわけでありまして、こゝが金、市民が知るといふことになりましますというところ。納税成績にえらい影響を及ぼすのではなからうかと思つてあります。そゝでお尋ねなわけであります。

第二番目の督促手数料は

ございますが、こゝをささない場合は、行政処分が将来滞納のあった場合に行行政処分は、はつきり出てお

ると思います。第三番目の延滞料、こゝは市税の方でははつきり各地区に出張してとつております。一かるに

保険料だけとらないということになりますというところ、ますます

いうと言葉が悪くなりしますが、市民の方  
 でそういう考えを起こして参ります。という、先ほど申しま  
 したとおり、納税成績にえらく関係してくるんだやなかう  
 かと思うので、お尋ねしたわけでありです。かような徴収も  
 市は金般一律一様に徴収するように早急にていたかくことを  
 希望するものでございます。

議長(石井潔君)他に御質疑ございませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたします。

議長（石井潔君） つづいて、日程第十四議案第九十二号を上程いたします。

（書記朗読）

・総務課長(兎戸貴君)九十二号の歳出から御説明を申し上げ  
ます。

第二款の市役所費は今回追加いたしましてものは四十三  
万八千円でございします。このうち需用費、燃料費、  
光熱費、通信運搬費、修繕料、それからございします。

この燃料費は十一月一日よりキャデラックを一台購入いた  
しまして、――所要額を計上したものでござい

ます。それから電気料、電話料は五月から分館を開設  
いたしまして、この分館の電気料と電話料で

ございします。自動車、修繕料は――万円、また、

ございしますが、これは自動車、修繕料は大体六万円  
ぐらい、――になりますので、三月までのもの

をここに計上したものでございします。

(第四款土木費について御説明いた

います。道路橋梁費のうち賃金の欄で十一万二千五百円の追加をお願いいたしました。これは日雇労働者に対して——あるいは——作業衣の

購入補助金について一人当り千五百円支給いたし

ます。これは対象人員が約——ございまして国庫

から補助が十分の——ございます。修築改築費のうち

改修工事

十一万七千円減額いた

しましたのは

伴いまして負担金が減

つたのでございます。水道費におきまして一万二千五百

円の賃金が追加となりました。これは本年度は非常

に三月以降雨が多いうででありまして、就でん用、ろ過器

用の砂の————こんごう砂の————いたしまして

一万二千五百円を追加いたしました。なお、消費費はこれ

も降雨のため、水が非常ににこりまする過用——

あるいは滅菌用——消耗が非常に多かつたのでございまして、こんど使用いたします。——薬品料としまして七万二千七百五十円追加いたしました。光熱費におきまして一万八千五百円、当初予算におきまして約一カ月間——がございまして、一万八千円、一カ月分を計上いたしました。

修繕料におきましては一万六千七百七十六円は今回——

でございますので、従来三千三百ボルトの電力が千葉電力がございまして、六千ボルトになります。

室灯の配線設備の模様替えのために一万——円——

——費につきまして——二千二百五十円は電球の購入

費五十個分を計上いたしました。光熱費の六千円は現在、電灯数が百七十個ございまして、この三月まで電球の不足額六千円を計上いたしました。——道路改良

工事費におきまして七万九千二百円は、日雇労働者に

対します。賃金増給分でございます。これは二百二十月の六日分を計上いたしました。それにつきましては、補助

金が――なっております。

・教務課長（鶴沢貴寛君）七款の教育費について御説明いたします。教育費におきまして、十三万円の追加でございます。

小学校費の工事請負費におきまして、十三万円を追加いたしましたのでございますが、これは那古小学校給水施設工事費として計上いたしましたのでございますが、現在那古小学校の給水タンクが炊事場のそばにあるのでございまして、ここは水量が少なく、足りない分を校門のところに井戸から汲むような状況なのでございまして、こんどタンクを校門のところへすえつけようというもので、その給水施設工事費が十三万円かかるわけでございます。ページをめくりまして、幼稚園費で工事請負費で旧館

山幼稚園舎解体工事費として一万九千円を計上いたしまして、こゝは旧城山の上にありまして館山幼稚園舎を管財局から払い下げまして一棟は現在、幼稚園舎に改良したのでございますが、もう一棟残っておりますのでございますが、こゝは、管理が行き届きません関係で戸障子をこわさねたり、床をはがさねたりまして、使いものにならなくなりますので、こゝを解体して小学校の校庭に改築したいため、工事費でございします。それから館山幼稚園の新しく増築しました園舎に電灯がございせんので、その配電工事費として七千三百五十円を計上いたしまして、なおこの財源はそれぞれ賃金、修繕料から更正したものでございします。体育費におきまして五千円、手数料で五千円を追加したものでございします。こゝは市営プールが公認期間が切れまして、ので、それをさらに継続するため、公認手数料でございします。

こゝも借料および損料から更正して計上したわけでございます。

・総務課長（完戸貴君）十一款の財産費について御説明いたします。

十二万一千八百六十四円の追如でございます。こゝは今回布良と相次から財産区財産を市有財産として受け入れまいたので、その測量をする必要がございます。今回計上するものでございます。九節の賃金に五万一千円を計上いたしました。こゝは測量士を一人、それから測量士の補助員を二人雇つてございます。測量士は一日三百円で、こゝを九十日分、補助員は一日一人二百円で二人分、こゝを六十日分計上いたしております。消耗品費の費は同財産の登記手数料でございます。

・選挙事務局長（岡崎亀吉君）第十三款の選挙費について



山幼稚園舎解体工事費として一万九千円を計上いたしました。  
こゝは旧城山の上にありました館山幼稚園舎を管財局から  
払い下げまゝで一棟は現在、幼稚園舎に改良したのでご  
ざいます。もう一棟残っておりますのでござりますが、こゝは  
管理が行き届きません。関係で戸障子をこわさしたり  
床をはがさたりまゝで、使いものにならなくなります。  
ので、こゝを解体して、小学校の校庭に改築したいた  
めの工事費でございます。それから館山幼稚園の新  
しく増築した園舎に電灯がございせんので、その配電  
工事費として七千三百五十円を計上いたしました。なお、こゝ  
財源はそれぞれ賃金、修繕料から更正したものでございます。  
体育費におきまして五千円、手数料で五千円を追加した  
のでございますが、こゝは市営プールが公認期間が切れまゝに  
ので、それをさらに継続するため、公認手数料でございます。

これも借料および損料から更正して計上したわけでございます。

総務課長（完戸貴君）十一款の財産費について御説明いたします。

十二万二千八百六十四円の追加でございます。これは今回布良と相換から財産区財産を市有財産として受け入れ、たので、その測量をする必要がございます。今回計上するものでございます。九節の賃金に五万一千円を計上いたしました。これは測量士を一人、それから測量士の補助員を二人雇ってございます。測量士は一日三百円で、これを九十日分、補助員は一日一人二百円で二人分、これを六十日分計上したところでございます。消耗品費の費は同財産の登記手数料でございます。

選挙事務局長（岡崎亀吉君）第十三款の選挙費について

御説明申—上げます。

選挙管理委員会、これにおきまして一万四千三百十円の追加をお願い申—上げました。当初予算編成当時各種の負担金が認められませんでした。計上いたしませんで、たが、その後、いたりまして、付記に書いてあります。とおりの各関係委員会が負担金が認められることになりまして、前回の追加予算に—

今回お願い申

—上げました。次でございす。参議院選挙費につ

きましては、四千九百五十九円追加になっておるんですが、こ

れは、国庫の委託金で、

多く参りまして、五

十二万五千八百三十九円、実際に交付金が参つておるよう

な関係上、国庫の交付金

四千九百五十九円

を追加いたした。でございす。あとは若干内容につ

きまして、更正した。がございす。が、御質疑によって、回

答へたいと思います。以上説明の概要を申し上げま  
した。

・総務課長（定戸貴君）つぎは歳入について御説明申し上  
げます。第二款の地方交付税の追加額は六十五万  
三千円でございます。これは三十一年度う普通交付税  
決定額は四千四百九十三万九千円でございます。

これは今回六十五万三千円財源にするものでござい  
ます。五款の国庫支出金のうち失業対策費といたしまして  
五万二千八百円、国庫補助金がございしますが、これは日  
雇労働者の期末手当といたしまして七万九千二百円

—— いたしますが、この三分の二の額に当るもの  
でございます。六款の県支出金は五万六千二百五十円  
でございますが、これは日雇労働者の医療療補助費  
といたしまして十一万二千五百円に対する二分の一の補

助金でございます。

七款の寄付金に十三万円計上いた

しました。これは、那古小学校増額工事寄付金といたしまし  
まして、二十五万寄付が今回あったのでございますが、当  
初予算におきまして、十万円計上いたってございまして、  
今回その差額の十五万円を予算措置をいたしたので  
ございます。一中の校舎増築費につきましても、今  
回十三万円の寄付がございしたが、当初予算におきま  
して、十万円計上いたってございまして、この未計上  
分を三万円計上いたってでございます。

議長（石井潔君）歳入歳出一括いたしました。審議をお願い  
いたします。

二十番（嶋貫壮作君）地方交付税は総額現在いくら入って  
おりますか。

総務課長（完戸貴君）四千四百九十三万（これは決定額でしう）

交付されている額」と呼ぶ者あり）こゝだけ金額交付を  
わまうた。

三十一番（

・総務課長（完戸貴君）

在非常に

多いのでございます。

件につきましては、現

納税者には、災害予防その他宣伝用に使用したいと

思いまうて

こゝうふうに考え

ております。

議長（石井潔君）他に御質疑ございますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

（）街灯について御説明申し上げます。

ただいま街灯は百七十個

あります。各地区

から街灯をつけてくよというような要望がございますので、  
私どももいたしまして、現在、街灯をもつと——気持  
は十分もっております。もっておりますが、現在ついておる  
街灯が本当についておるかついていないかということがまだわ  
かりません。ついておらなければ一応——  
余裕ができたう——  
もって行きたい

とかように考えております。

三十一番

（寄付をして管理するということ）

（いまのところちまつと、）

議長（石井潔君）他に御質疑ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって本案は、

原案通り決定いたしました。

議長（石井潔君）本定例会は日程の全部を議了いたしました。以上をもって本例会を閉会いたしたいと存じますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（石井潔君）御異議なしと認めます。よって、これをもって閉会いたします。長時間にわたりまして御審議ありがとうございました。



